

# 図書館 だより

図書館 ☎69・3706

## 今月の特集

### 「気鋭の武将 平清盛の実像」

今月は、2012年NHK大河ドラマの主人公、平清盛を特集します。



#### 『平清盛の闘い 幻の中世国家』

角川叢書 元木 泰雄/著 角川書店  
院政との闘いや福原遷都を通して、政治家清盛の真の姿を描き出す。



#### 『平家の群像 物語から史実へ』

岩波新書 高橋 昌明/著 岩波書店  
当時の貴族社会や合戦の現実と、人物の動きを丹念に追うことで、新たな「史実」を浮かび上がらせる。

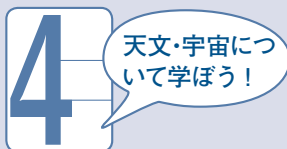


#### 『絵本平家物語 カジュアル版』

安野 光雅/著 講談社  
平家物語の名シーンを淡い彩りで描いた精密な絹絵と、平家物語のあらすじで綴り上げた、現代版絵巻。

## 分類特集は

### 「44」：天文学



#### 『星座・星空』

藤井 旭/著 山と溪谷社  
日本から見られる星座と各星座付近の星雲・星団を四季別に紹介する、ネイチャー入門図鑑。



#### 『眠れなくなる宇宙のはなし』

佐藤勝彦/著 宝島社  
古代インドの宇宙観から、宇宙をめぐる宗教裁判まで、ワクワクする、眠れなくなるような宇宙のはなしを紹介します。



#### 『今日から暦暮らし』

平野 恵理子/著 山と溪谷社  
四季折々の自然、年中行事、おいしいもの…。昔から伝わる知恵がたくさんつまった暦の本。

他にも、天文・宇宙・暦について書かれた本がたくさんあります！

■難しい展示の解説  
水族館には水槽の近くに魚の紹介パネルがあり、展示物の解説プレートは、水族館に限らずどんな博物館にもありますが、どこもその解説は専門的で難しいですね。読んで「フムフム、なるほどね」などと理解したフリをして実は全く意味がわからずにヨタヨタと次の展示物へ進む、ということが多いのではなからうか。そして皆、それが博物館の解説だから仕方

がないと思いきや、専門用語が専門の立場で解説を作っているのが原因で、そこには自己満足、能力誇示、見下し、などのインキな態度が見え隠れする。  
■専門用語をなくせ！  
「ウチの夫婦は夫が育児を担当します。お口の中で卵を育てるぞですよ。」  
これは、竹島水族館の魚の解説パネルに書かれている内容の一つです。専門的な解説はやめよう、と竹島水族館ではすべての生き物

の解説から専門用語を排除し、楽しんで読める解説に変えました。「潮干帯下部に棲み第三顎脚に櫛状歯を有す」とかいう意味不明宇宙語解説から、すべて「魚から一言」というそれぞれの魚からのコメントに変え、「全長」も「大きさ」に変更。「分布」も「住所」に変更しました。その結果、昔よりも断然お客さんが解説を読んでくれるようになり、これは大当たり。みんな水槽の魚よりも夢中で解説を読んでいます。

■お客さん視点で  
そもそも真剣に勉強をしに水族館へ来る人というのは一日に数人で、多くの人は楽しむために来ています。そこへ「多様との違いは背ビレ棘条本数である」とかいう  
解説があっても、それを読んだ父親は「そうか背ビレのトゲの数で種類が違うのか、オレの髪の毛は毎日数が少なくなるが、種類は変わらず父は父だぞ！」とでも子どもの前で言うのだろうか。大抵は何も言わず、へえ、とか、ほう、とか言って勉強になるチアとか小さくつぶやいて何も頭に残らず親子で次の水槽へ進むのではないだろうか。それではもったいない。  
物事というのは、こちら側から見たのと、あちら側から見たのでは見え方や感じ方が違う。どれだけお客さんの立場で考えるかが、これからの課題の一つとして職員の間で挙げられています。どんどん楽しい水族館を作っていくのが期待くださいな。



学芸員 小林龍二

竹島水族館  
☎68・2059